

<講評>

2019年度の外国語コンテスト英語部門は、11月7日（木）の午後2時半から、短大のローラ・リー・クサカ先生と椙山女学園大学の池沙弥先生を審査員としてお迎えして開催されました。25回目の今年度は、留学生（英語母語話者を除く）をはじめ、国際コミュニケーション学部、法学部、経営学部からの8名の参加者が自作の英語のスピーチを披露してくれました。国際コミュニケーション学部の横地華さんと迫田篤志くんが英語で進行を務めてくださいました。彼らのテンポの良いかけ合いとコメントに会場が大いに盛り上がりました。

今回も、審査員の先生方にはスピーチの内容、表現の正確さ、発音の流暢さ、プレゼンテーションのスキルを総合的に判断し評価していただきました。写真や絵を効果的に使用したプレゼンテーションが多く、視覚的にも楽しめるスピーチが多く見られました。また、今回から、オーディエンスによるスマホのアンケート投票による審査も行われ、オーディエンスが審査に関わることが可能になりました。

審査の結果、入賞者は以下の通りになりました。

1位：19K1015 白井陽奈 (Haruna SHIRAI)

タイトル：“English for International Students”

2位：13K1022 平川愛理 (Airi HIRAKAWA)

3位：19J1069 菅原暖仁 (Haruto SUGAWARA)

オーディエンス賞：17J1229 山内智世 (Tomoyo YAMAUCHI)

1位の白井さん（国コミュ）のスピーチはグローバルラウンジにおける英語使用について、外国人留学生に挙げられた課題から自分なりの解決策を提示するものでした。日本人学生と外国人留学生がお互いに意思疎通をし、英語を話したい日本人学生の欲求を満たすには英語を話すのが手っ取り早い、日本語をもっと練習したい外国人学生もいる。英語を話したい日本人学生と日本語を話したい外国人留学生の要望をどちらも満たすには、日本語のフリートークも必要であり、それは実は英語と日本語両方の言語習得の上でも利点があるということ、最近学んだ英語表現と日本語表現を交えて話され、明瞭なスピーチの内容と分かりやすい発音が評価されました。2位の平川さん（国コミュ）は、一度しかない自分の人生において勇気を出して一歩踏み出すことの大切さを、ミュージカルで働いた経験と、その際に仕事仲間からかけてもらった言葉を切り口に力強く語ってくれました。緊張しながらもしっかりとオーディエンスを見て、身振り手振りを交えて訴える姿が印象的でした。3位の菅原くん（法）は、「興味のないミュージシャンのコンサートを楽しむことはできるのか？」というユニークな問いから、ユーモアを交えた自然体のスピーチを展開してくれました。「コンサートは太鼓の達人だ」というユニークな結論が笑いを誘い、オーディエンスの注目を一

気に集めました。オーディエンス賞の山内さん（法）のスピーチは、ファストファッションと貧困、児童労働問題との関係に言及したものでした。私たちが普段何気なくとる行動が途上国における深刻な問題と実は密接に関係しているという、大変考えさせられる内容でした。

入賞者以外のスピーチのテーマも「気候変動を防ぐために心がけていること」や「ネット社会における忍耐とは」など多岐にわたり、オーディエンスとして参加した皆さんも学ぶことが多かったのではないかと思います。審査員のクサカ先生も池先生も、各発表者の発想力と洞察力の高さに驚き、感心しておられました。

惜しくも入賞できなかった皆さん、よろしければ来年度、ぜひ再挑戦してみてください。今年も沢山お集まりいただいたオーディエンスの皆さん、次はあなたがマイクを握る番？ あなたの挑戦をぜひお待ちしております。

（地村みゆき、リーア・ギルナー）